

流通経済大学 vs 桐蔭横浜大学

5月26日(日)
11:30K.O.
BMWス

順大とのゲームは0-0のスコアレスドロー。
「2試合続けて決定機を決められず、勝てる試合を引き分けたというのが正直な感想」
と中野雄二監督は試合後に話したが、さらに続けた。
「ただ実際は、こういう均衡した展開になると我慢しきれずに失点してしまい、負けてしまうもの。勝ちきれない悔しさはあるが、引き分けにできる粘り強さはある。特に、ここ2試合、無失点に抑えられているのはディフェンスの成果」(中野監督)
チーム力のアップに手応え十分といったところ。守備を徹底させながらゲームを支配する力も出てきただけに、ここからどう得点に結びつけるかがポイントだ。
「前半戦最終戦なので、多少リスクがあっても勝点3を取ることにチャレンジしたい」(中野監督)
慶大を2-1で下し、勝点を11まで伸ばした桐蔭大。しかし、試合後の八城修監督は、
「内容的にはあまりよくなかった。よく勝ったというのが正直な感想」
と、表情を緩めなかった。
「ボールを失う回数や、取って取られてという展開が多いので、もう少し自分たちの時間を長くできればいいと

思う」(八城監督)
特に前半は攻め込まれる時間帯が長く、なかなか自分たちのリズムに持ち込めなかった。後半、相手の運動量が落ちてきたところでようやくコントロールできただけに、これを前半から発揮したいところ。ただ、相手を上回る運動量で守備の意識も高く、全員がハードワークしていたことは十分に評価できる。
流経大は守備が安定してきているだけに、いかにゴールを奪うか!?

昨年のリーグ戦での対戦はなし

流経大				桐蔭大			
16. 湯澤	4. 中美	8. 山崎	3. 香西				
36. 有賀			6. 福島				
7. 中山			37. 末廣				
1. 原田	10. 黒田	18. 田上	10. 坪井	5. 金子	1. 島崎		
6. 富田			9. 大泉				
5. 川崎			4. 古澤				
2. 田向	20. 江坂		11. 山根	12. 井上			

専修大学 vs 日本体育大学

5月26日(日)
13:50K.O.
BMWス

中大とのゲームは均衡したものとなった前節の専大。単純に決定機だけを数えれば、相手のほうが上だった。しかし、そこを決定力の差でねじ伏せ、終わってみれば5-2の大勝。貫禄を見せたといえる。
7節で負傷した本名正太郎(4年)のケガは長引きそうだけに、守備に関してはさらに厳しい状況が続く。それでも前節はゴール前で体を張って奮闘していたが、リードしては奪われるという展開は反省点だ。
ただ、攻め込まれる回数は多いが、前線や中盤の選手を含め守備の意識が高く、豊富な運動量でカバーしている。そのぶん、終盤にやや疲れも見え、チーム全体の守備という部分では機能しているからこそ、
「守備一辺倒にならず、どこかで攻撃をするという気持ちを持ちながらしっかりとプレーしているところは成長が見られる」(源平貴久監督)
という攻撃面につながるのだろう。
今節対戦する日体大は、守備がしっかりとしているチーム。ゴールをこじ開けることができるか。
優勝争いを続けるためには、絶対に負けられない一戦となる日体大。前節の早大とのゲームは、
「昨年、2敗している早大に絶対に勝とうという意気込

みで臨んで、前半はいい形で自分たちのサッカーができた」(倉又寿雄監督)
というように、前半41分には先制点を奪取。このままゲームを進行できればよかったが、後半は一転して早大ペースとなってしまった。
「早大にいいボールを蹴られて、自分たちのボールを保持する時間が短くなってしまった」(倉又監督)
風の影響もあったが、そういった状況でも自分たちのサッカーを表現する力強さを出していきたい。
昨年の対戦：前期/専大1-1日体大、後期/専大2-2日体大

専大				日体大			
34. 小口	11. 前澤	7. 梅村	5. 中西				
6. 河津		11. 北脇	4. 菊地				
	7. 長澤		10. 稲垣				
1. 福島	39. 吉村	22. 山川	1. 伊藤				
	8. 下田		6. 石井				
3. 萩間		9. 田中	3. 広瀬				
2. 北爪	10. 仲川	15. 阿部	2. 宮内				

※布陣は前節のメンバーを参考にした予想

JR東日本カップ 2013 第87回 関東大学サッカーリーグ戦



OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM

VOL.25-NO.9 Division1



編集：加茂郁実 印刷：関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ

専大が一步リード、追う早大、日体大は!?

早くも今節で前半戦を終了する「JR東日本カップ 2013 第87回関東大学サッカーリーグ戦」。前節で専大が優勝争いから一歩抜け出したが、このまま差を広げて前半戦を折り返すのか。それとも他のチームが意地を見せるのか。まずは、前節から振り返ってみよう。
首位を走る専大。中大相手に常に先手を奪いながらなかなか突き離せず、逆に相手に決定的チャンスを作られる厳しい展開だったが、決定力で上回った専大がゲーム終盤に中大を突き放し、5-2で下して7勝目を挙げた。中大は2敗目を喫し、優勝争いからやや後退。
専大を追う早大と日体大の直接対決は緊迫したゲームで、前半に日体大が先制点を奪ったが後半に早大が追いつき、このまま1-1のドロー。痛み分けに終わった。早大の2位は変わらないが、専大からは4ポイント離れてしまった。
明大と筑波大の一戦は、明大がゲームを支配しながらもゴールを奪えないという、いつもの展開に。両者ゴールを決めることができず、0-0のスコアレスドローに終わった。
地道に勝点を積み重ねる流経大は、このところ調子が下降気味の順大と対戦。ゲームは流経大が優位に進めたが、ゴールを奪うことができず0-0に終わった。順大は試合内容でも後手を踏んだだけに、勝点1はラッキー。
2連勝と復活の兆しが見えてきた慶大は、やはり調子が上がってきた桐蔭

得点ランキング

長澤 和輝 (専大)	8点
仲川 輝人 (専大)	7点
以下4得点6名	

アシストランキング

仲川 輝人 (専大)	3アシスト
稲葉 圭吾 (専大)	3アシスト
北爪 健吾 (専大)	3アシスト
長澤 和輝 (専大)	3アシスト
以下2アシスト10名	

大と対戦。好ゲームとなったが桐蔭大が2-1で慶大を下して、勝点を11まで伸ばした。
国士大と東洋大の一戦は、残留争いに巻き込まれ苦しい国士大が、前半14分に先制点を奪われながらも後半に2ゴールを奪って逆転に成功。何とか2-1で東洋大を退け、2勝目を挙げた。
筑波大、国士大という伝統校と、1部に昇格した東洋大が勝点6で低迷している。こちらも後半戦の巻き返しに向けて、何とかきつかけをつかみたいところだろう。

JR東日本カップ 2013 [第87回] 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

順位	チーム名	専大	早大	日体大	明大	中大	桐蔭大	流経大	順大	慶大	筑波大	東洋大	国士大	勝数	敗数	引き分け	得失点差	得失点率	勝点	
1	専大		後半戦	5月26日	後半戦	502	602	203	201	601	201	301	201	7	0	1	28	12	16	21
2	早大	後半戦		1Δ1	201	後半戦	1Δ1	300	001	201	100	100	5月25日	5	2	1	11	5	6	17
3	日体大	BMWス	1Δ1		後半戦	100	001	200	1Δ1	102	後半戦	301	100	4	2	2	10	6	4	14
4	明大	後半戦	102	後半戦		5月26日	302	0Δ0	401	2Δ2	0Δ0	001	201	3	3	2	12	9	3	12
5	中大	205	後半戦	001	味フィ西		1Δ1	0Δ0	200	100	200	1Δ1	後半戦	3	3	2	9	8	1	12
6	桐蔭大	206	1Δ1	100	203	1Δ1		5月26日	後半戦	201	001	後半戦	100	3	2	3	10	13	-3	11
7	流経大	302	003	002	0Δ0	0Δ0	BMWス		0Δ0	301	1Δ1	後半戦	後半戦	2	4	2	7	9	-2	10
8	順大	102	100	1Δ1	104	002	後半戦	0Δ0		後半戦	5月25日	2Δ2	500	2	3	3	11	11	0	9
9	慶大	106	102	201	2Δ2	001	102	103	後半戦		後半戦	5月26日	302	2	1	5	11	19	-8	7
10	筑波大	102	001	後半戦	0Δ0	002	100	1Δ1	味フィ西	後半戦		5Δ5	102	1	3	4	9	13	-4	6
11	東洋大	103	001	103	100	1Δ1	後半戦	後半戦	2Δ2	味フィ西	5Δ5		102	1	3	4	12	17	-5	6
12	国士大	102	味フィ西	001	102	後半戦	001	後半戦	005	203	201	201		2	0	6	8	16	-8	6

体育会学生のための

リクナビ就職エージェント

ゴールは、自分の中にある。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」
http://job.rikunabi.com/agent/athlete/info02/



RECRUIT

早稲田大学 vs 国士舘大学

5月25日(土)
11:30K.O.
味フィ西

前節の日体大戦だが、前半はやや相手にペースを握られてしまった早大。いつもなら、苦しい状況でも耐えて無失点に抑えるのが早大の強みだが、前節は失点。

それでも後半に入ると、「相手の運動量が落ちてきたときに、ゴールに向かうんだというベクトルが全員合致し、人数をかけて厚みを持って攻めていくことができた。その中で同点に追いついたことはよかった」(古賀聡監督)

というように、後半の戦い方は見事だった。欲をいえば勝ち越したいところだったが、日体大の守備も強固だっただけに致し方ないか。

「自分たちの流れの時間をいかに早く作れるか、厳しい時間帯を失点なく我慢できるかがポイント」(古賀監督)

これ以上専大に離されるわけにはいかないだけに、勝負の前半戦最終戦といえるだろう。

一方の国士大も負けられないという気持ちは強い。まだ前半戦とはいえ、残留争いに巻き込まれているからだ。前節の東洋大戦は前半14分にオウンゴールから失点してしまう最悪の展開となったが、それでも気落ちすることなく後半に2ゴールを奪って逆転勝利。精神的にも明るい材料といえるだろう。

「シンプルなサッカーをしようということが表現できた」(細田三二監督)

一方で、「急ぎすぎて、ボールを奪ってもすぐに相手に渡してしまうシーンが多かったので、後半はそれを少し改善した」(細田監督)

というように、やろうとすることが一辺倒になってしまいうきらいがある。この勝利をきっかけに、アグレッシブさは失わず余裕のあるゲーム展開をしていきたい。

昨年の対戦：前期/早大3-2国士大、後期/早大6-1国士大

早大		国士大	
6. 三竿	8. 近藤洋	14. 進藤	29. 山田
13. 金澤	9. 榎本	16. 平松	13. 仲島
18. 小松		3. 吉田	
1. 松澤			21. 久保田
5. 池西		24. 端	
2. 奥山	19. 上形	11. 児玉	22. 今瀬
12. 八角	7. 近藤貴	2. 石川	6. 嶺岸

慶應義塾大学 vs 東洋大学

5月26日(日)
11:30K.O.
味フィ西

6、7節で2連勝を達成した慶大。調子が上がってきたように見えたが、前節の桐蔭大戦は1-2の敗戦となった。

「残念な結果。特に前半、相手のディフェンスの裏だったりサイドにスペースがあったのに、そこをついて得点できなかったのが敗因だった」(須田芳正監督)

前半のチャンスを生かせず0-0で折り返すと、後半8分に先制点を奪われる展開。一度は同点に追いついたものの35分に逆転を許し、追いつく力は残されていなかった。

特に終盤、やや運動量が落ちたのが気がかり。相手のカウンターに対しても処理しきれない場面があっただけに、そういった対応をしっかり修正していかなければいけないだろう。

試合内容自体は決して悪いものばかりではないが、なかなか勝点を積み重ねることができないでいる東洋大。前節は同じく残留争いをする国士大との一戦だったが、1-2の逆転負けを喫してしまった。

前半の戦いは決して悪くなかった。オウンゴールとはいえセットプレーから先制点を奪い、その後も試合を優位に進めた。しかし、後半になるとやや相手ペースにな

ってしまったのが反省点だ。

「もっと自分たちでボールを保持し、自分たちの時間を作る必要がある。時間はかかると思うが慶大戦をしっかり」と戦って、中断期間中に立て直したい(古川毅監督)

選手たちの能力は高いだけに、自信を持ってプレーすればもっと主導権を握ることができるはず。開幕当初のようにアグレッシブな気持ちを前面に押し出し、プレーしていきたいところだ。

警告3回：松下純土、溝渕雄志(以上慶大)、藤井悠太(東洋大)

昨年の対戦：リーグ戦での対戦はなし

慶大		東洋大	
29. 山田	14. 川田	13. 川森	7. 馬渡
4. 保田			12. 内田
6. 山浦		6. 石川	
21. 増川	36. 淡野	20. 端山	11. 黒須
	8. 松下		10. 桑田
		32. 仙頭	1. 浅沼
35. 望月			5. 藤井
33. 溝渕	11. 近藤	9. 三田	16. 筑井

筑波大学 vs 順天堂大学

5月25日(土)
13:50K.O.
味フィ西

「残念だった。勝点3を取れそうな試合だったので悔しい」

と、筑波大・中山雅雄監督が振り返ったように、前節の明大戦は0-0のスコアレスドローに終わってしまった。決して内容が悪かったわけではない。

「しっかりと無失点で抑えられたのは非常によかった。攻撃も決してチャンスを作れなかったわけではない。もう一步のところまでは押し込めていた。決めきれるかどうかというところまではいけていた」(中山監督)

しかし、あと一步が遠い。

「もっと一つずつのプレーの精度を上げることで、確実に点が取れるはず。今までやっていることの精度を上げ、スピードや攻守にわたってやるべきことをやって勝ちきりたい」(中山監督)

ここのところの順大はやや元気がない。前節の流経大戦も0-0で勝点1をゲットしたものの、

「点を取れるチャンスをほとんど作れなかった。ゲームとしては勝点1を取れたことを評価しなくてはいけない内容だった」

と、吉村雅文監督も自分自身を納得させるかのように語った。相手に決定的チャンスを作られながら、そこを

必死に守りきった守備面は評価できるものの、やはりシュート3本では勝点3に結びつけるのは難しい。

「90分間守備がベースのチームなので、守備をやり続けたことはよかった」(吉村監督)

あとはゴールが必要だ。

「攻撃のチャンスをたくさん作れるチームではないので、数少ないチャンスをきちんとモノにできる決定力を改善したい」(吉村監督)

警告3回：谷口彰悟(筑波大)

昨年の対戦：前期/筑波大2-0順大、後期/筑波大1-3順大

筑波大		順大	
12. 三丸	8. 上村	11. 原田	16. 吉永
5. 車屋			3. 清水
3. 谷口		28. 野田	
1. 神舎	10. 玉城	9. 赤崎	12. 進藤
			14. 長谷川竜
	7. 葺本		6. 岡崎
2. 田代			13. 宮本
6. 片岡	13. 曾山	9. 岡庭	2. 友澤

明治大学 vs 中央大学

5月26日(日)
13:50K.O.
味フィ西

7節で早大相手にアディショナルタイムで失点し、1-2の敗戦を喫した明大。前節の筑波大戦は精神的影響が心配されたが、0-0のスコアレスドローに終わった。ただ、ゴールは奪えなかったものの、無失点に抑えることができたのは評価できるだろう。

「みんなが体を張っていた。リバウンドしたボールにも寄せていたし、筑波大が完全な形を作ったことはほぼなかった。ディフェンス面もだいぶ整備された」

と、神川明彦監督も守備面には十分な手応えを感じ取っていた。一方で、ここぞというときのゴールが今の明大には必要。

「アタッキングサードとセットプレーの精度が課題。もったいない場面が多かった」(神川監督)

あと一步のところでもゴールが遠い。6節の順大戦のように、取りきれれば強さが発揮できるのだが……。

「決めきることができなかった」

専大との直接対決に2-5で敗れた白須真介監督の言葉どおり、試合内容では中大が勝っていたといってもいいだろう。しかし、決定力の差が明暗を分けた。

また、一瞬の集中力の差ともいえるだろう。2-3と1点差に詰め寄せた直後のプレー。サイドラインを割り

そうなボールに対して、1点をリードしている専大はあきらめずに追いつき、そこからゴールを奪った。逆に、これで中大は緊張の糸が切れてしま5失点。

精神的な差も出たし、後半は決定的なチャンスを作りながらも決めきれなかった。まだまだ修正点は多い。

「あそこで決められるようにならないと、後半戦も厳しくなる。アイデアの部分もさらに必要」(白須監督)

しっかりと課題を克服したい。

警告3回：細見諒(中大)

昨年の対戦：前期/明大1-2中大、後期/明大3-0中大

明大		中大	
2. 八塚	10. 矢田	11. 川越	19. 鈴木
12. 小池	9. 西澤		12. 木村
	17. 差波		8. 田辺
1. 三浦		7. 砂川	25. 渋谷
	6. 水野		1. シュミット
3. 山越	33. 三苦		4. 細見
			27. 小出
31. 室屋	8. 和泉	17. 右高	2. 古賀